活用現場レポート

西明水産

広島県東広島市　カキ養殖





カキの名産地広島の安芸津湾で種ガキと活魚の営業をされてきた西明水産様。1999年にＦＦＣと出会い、カキの養殖業を再開されました。そこから継続してＦＦＣを活用され、立派なカキの生産と、湾の浄化まで多くの成果をあげられています。ＦＦＣを活用し続けられている西明様の今を再取材いたしました。（前回取材 2003年10月）

経営者のお話



社長 **西明 教康** 様
奥様 **西明 百合子** 様

ＦＦＣを活用し始めて４年目で大変大きな効果が出てきました。４年目にヘドロが減少し、とても美味しいカキが出来ました。それから試行錯誤を繰り返し、年々海もカキも良くなっています。特に今年はどうしたのかというくらい良いカキができました。

購入された方々からは、美味しくて涙が出るという嬉しいメッセージもいただきました。海も昔の様子を取り戻しています。綺麗になった海を見て、岩谷さんと一緒に船の上で男泣きしたこともありました。

パイロゲンやセラミックスは嘘をつきません。自宅の庭にイチジクを植えていますが、エースやカキ殻を活用して２年ですごく大きくなりました。今後カキ殻を５０ｃｍくらい撒いて、どういう果物が美味しくなるかやってみたいですね。これからもいろいろなことにＦＦＣを活用してみようと考えています。

ＦＦＣテクノロジー活用方法

カキ養殖

1. 稚貝を付けるホタテ貝の殻に、活水器の水を散布。（真水）
2. 針金を通したホタテ貝を沖に吊るし、稚貝の基となるカキの幼生（赤ちゃん）を付ける。（7~8月頃）



3. 稚貝が付いたホタテ貝を抑制棚※に移動し、成長させる。（半年間）





4. 海水を取り、ＦＦＣセラミックス処理を行う。その後、１０００倍希釈になるようにＦＦＣパイロゲンを添加。一晩おいたものに、③を３０分浸漬して沖の筏に吊るす。
ＦＦＣエースはカキ筏にまとめて３袋入れる。それが海底に溜まり、２~３年は崩れずに効果を出す。一気に入れるのもコツとのこと。
5. **成長したカキを収穫**（約３年）



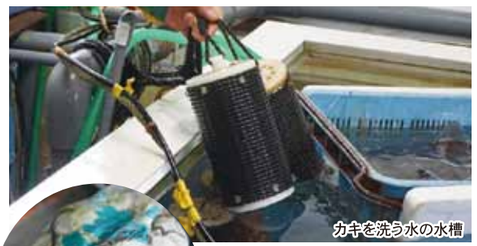
※抑制棚とは…潮の干満の影響を受ける場所に設置されている棚。
抑制棚に移動することで、カキが大きくなり過ぎない他、環境の変化への抵抗力を付け丈夫なカキに育てることができます。

鮮魚店

- **カキや魚の水槽に使用する水にはＦＦＣセラミックス処理をした海水にバブリング（細かな気泡を起こす）を行い、使用。**
- **カキにはＦＦＣセラミックスの水に加え、ＦＦＣパイロゲンを使用。**

効果

セラミックスとバブリング装置を併用することで水槽内やセラミックスの容器の表面のヌメリなどが大幅に改善されました。むきガキは通常３~４日後には水が濁ってしまいますが、西明様のカキは１０日経っても濁らないそうです！


カキを洗う水の水槽


むきガキ


鮮魚店のカキ


西明様と岩谷様

ＦＦＣを活用するきっかけ

『ＦＦＣと出会ったのは今から約１７年前です。別の漁業組合の同級生から、他のカキと比べ物にならないほど良いカキが作れる方法があるらしいと聞きました。その方法は、丸い玉のようなもの（ＦＦＣセラミックス）と薬のようなもの（ＦＦＣパイロゲン）を使っており、自分もやってみたいと漁業組合の人に相談したところ、岩谷儒須夫さんを紹介されました。それがＦＦＣと岩谷さんとの出会いです。

岩谷さんからＦＦＣの使用方法や、アドバイスをいただきＦＦＣを導入。それ以来、岩谷さんはうちのプロデューサーのように協力していただき、ともに歩んできました。』

活用効果





大ぶりで、濃厚な味のカキができるように！

- **接着面が通常の４倍になることで重さや台風等で落ちることなく、大きく育つことができます！**
- **大きくても大味ではなく、濃厚な旨味がぎゅっと感じられるカキです！**

カキの稚貝の生存率がほぼ１００％！

広島県では３年ほど前からほとんど稚貝が付かないという原因不明の深刻な被害※が起こっています。しかし、**西明様の筏の稚貝の生存率はほぼ１００％で被害が出ていません！**西明様だけ、稚貝がなぜ付くのかと同業者の方からも驚いて聞かれるほどの結果が出ています。安定して稚貝が取れることや高品質なカキを作ることで、規模を年々拡大されています。

養殖規模の拡大（カキ筏の数）　2003年 13筏 → 2016年 45筏

※長雨による塩分濃度の低下、川からの栄養成分の減少等がいわれていますが、はっきりとした原因はわかっていません。

海のヘドロの減少

導入以前 60cm → 活用4年後 15cm → 現在（2016年） ほとんどない状態



カキ筏の海底のヘドロもなくなってきているそうです。

世界的にも有名なプロの潜水士 渋谷正信様が西明様の海域に興味を持たれ、海底を調査してくださいました。カキ筏の下はヘドロが堆積していることが多いということですが、西明様の筏の海底は、非常に良い環境で他のとは違うと驚かれていました。




西明様のカキ筏周辺に繁茂するアマモ



㈱渋谷潜水工業 潜水士
代表取締役
渋谷 正信 様

１９４９年 北海道生まれ。２４歳で潜水士になり、約３０年、３万時間を超える潜水経験を持つ。「海と人と心を結ぶ」を基本コンセプトに潜水士の会社を経営。環境の再生にも取り組まれており、「ＮＨＫプロフェッショナル~仕事の流儀~」や「情熱大陸」等複数のメディアでも取り上げられている。

「稚魚のゆりかご」アマモの復活

ＦＦＣ導入前の１９９８年ころからアマモが減少し始めていましたが、導入後の２００３年頃には１５万坪ほどの広さで再生しました。現在ではさらに広がり、**今まで生えていなかった沖の方までアマモの群生が広がっているそうです。**


アマモの群生

※ＦＦＣパイロゲンは清涼飲料水ですが、ご本人の経験により生産工程で活用されています。　※掲載事項に関するご質問は㈱エフエフシー・ジャパンまでお願いいたします。

発行元：**株式会社 エフエフシー・ジャパン** 〒514-2293 三重県津市高野尾町1868番地の３ TEL:059-230-3595 http://www.ffc-japan.co.jp